

## 4. 奈川地区における住み続けられる地域づくり

松本市地域づくりインターン第1期生・奈川地区担当 松本 尚子

### はじめに

平成27年度の活動は、奈川地区の現状を把握することから始めた。奈川地区は人口が、平成15年4月に1089人であったが、平成27年4月には790人とこの10年で人口動態が大きく減少傾向に動いている。地区内に働く場が少なく市街地に働きに出ていることや、高校に進学すると共に奈川地区から出てしまう等様々な現状があり、現在の奈川地区に生活がある住民数を把握するために人口実態調査を行った。そこで、奈川地区に生活実態がある住民は639人とわかった。これは、市の統計よりも2割近く奈川に住民がいないという結果になった。

この少ない人口で何ができるかを考えると、奈川地区には畑に出て働いている高齢者が多くいる。その高齢者を本事業での大きな対象者として捉えるようにした。

そして、奈川地区は昔からそばや花豆、赤カブ、えごま等といった作物が作られ、特産品の一つにもなっているえごまを高齢者と一緒に作り、地元企業で商品化をして、えごま油などなどの商品化を行った奈川産食材のブランド化である。

しかし、元気な高齢者もいる一方で、暮らしに不安を感じながら生活をしている高齢者の声も多く聞くようになった。平成20年3月に策定した地域福祉計画以来から、住民のニーズを拾い上げる作業は公式的には行っておらず、まず住民のニーズ調査を実施することから始めることにした。「奈川のくらしを語る会～住んでよかった奈川に～」と題し、講演会や、「井戸端会議」という名前でグループワークを行い気軽に意見を出し合う内容とした。

平成28年度は、27年度を基盤に活動を行ってきた。その活動の内容をまとめた。

### 1. 地域づくり活動分析

#### (1) 健康寿命延伸都市に向けた取り組み

地域で高齢者の話を聞くと、「いつまでも住み慣れた奈川地区にいたいけど、具合が悪くなった時は

ここでは暮らせない」、奈川から出て息子の家や福祉施設に行かなければならないと話す高齢者が多くいた。平成20年3月に地域福祉計画を策定して以来から公式的には住民のニーズを拾い上げる作業は行っていなかったため、ニーズ調査をするため、平成28年2月21日に「第1回奈川のくらしを語る会」を行った。


本年度も、住民のニーズ調査や、住民へ奈川地区で暮らしていくには住民の力が必要だと働きかけるために第2回を平成28年11月27日に行った(図1)。

図1

**第2回 奈川のくらしを語る会**  
～住んでよかった奈川に～

「人生の最後まで奈川で暮らすには  
元気であるだけで大丈夫でしょうか？」

住み慣れた奈川で、安心した生活をしていくには何が  
必要なのか、そのヒントを講師の方から学びます。  
家族の皆さん、地域の皆さんと一緒に奈川のことを考え  
てみませんか？



**<日 時> 11月27日(日)**  
**13:30 ~ 15:30**

**<場 所> 文化センター夢の森 コンベンションホール**

**<内 容> 13:30 講演**  
講 師 松本市社会福祉協議会四賀地区センター  
山岸 勝子氏  
テーマ 「住民の支え合い事業」

**井戸端会議**  
お茶を飲みながら地域のことを気軽に  
話しましょう。

**15:30 終了予定**

参加申し込み、参加費は不要です。お気軽にご参加ください。

**\*バスが出ますので、最寄りの停留所又は公会堂でお待ちください。**  
①12:40 川浦発 →12:55 寄合渡(坂の曾・公会堂回り)  
→13:00 曾倉 →13:05 金原 →夢の森着  
②12:40 入山発 →12:50 診療所 →12:55 奈川温泉  
→13:00 黒川渡(旧支所・学校口) →夢の森着

主催：奈川地区地域福祉計画推進委員会  
電話：79-2121

気軽に話ができるように井戸端会議と題して、引き続き行ったワークショップを行った。第1回では、地区に何が必要か?という部分が深くニーズ調査をファシリテーターが聞き出すことはできなかった。そこで、第1回で多く出た「交通」、「買い物」の意見を多く聞けるように、各グループに2人付いている

ファシリテーターに誘導を依頼した。自由討論式で話し、新たなニーズを拾いながらも、前回出た課題の解決方法実現化を住民と探るねらいがあった。しかし、井戸端会議内ではニーズ意見や、暮らしの不安や生活実態は多く出たが課題の解決方法があまり出ることがなかった。井戸端会議の前に講演会を行い、松本市四賀地区社会福祉協議会の職員から「住民の支え合い事業」をテーマに四賀地区で行っている様々な事業を聞き、その話を自分に置き換えてもらいたいと考えていたが、四賀地区の事例であり、奈川地区での“自分ごと”として捉え考えるまでいかなかった。「四賀地区と同じようなこういうのがあったらいいな」が出て、では実際にどうやって行っていけばいいかになると話が止まってしまった。

写真1



スタッフ間の反省で、不安を出し合う場になってしまいそこから発展せず、グループ内で解決の手段が描くことができなかった。その場で住民の不安を、ファシリテーターが支えあい活動に導く流れができなかったことが大きな反省点となった。スタッフで仮提案を作り、住民からできることできないことを出してもらおう方法が奈川地区には適しているのではないかと提案があった。

奈川地区地域づくり協議会の発足準備会が平成29年2月28日に行い、その前段として、第3回の井戸端会議を行った(図2)。

ここでは、今まで行ななかった方式を多く活用した。一つ目は、話すテーマを固定した。今までに出ていた不安であった「買い物」、「交通」、「暮らしの不安」の3つの課題にのみした。各々の机で話そうにして課題解決方法まで繋がるようにファシリテーターが導くようにした。二つ目は、意見の出し方は、自由に話してファシリテーターがまとめる方法だったが、ポストイットに意見を書き模造紙に張り出していく方法で行った。この方法により視覚的

に課題の把握がわかりやすくなり、まとめやすくなった。三つ目は、一つの机にいる時間を決め他の二つの机にも順番に動き、住民が全部の課題に対して話ができるようにした(写真2.3.4)。また、第2回の反省で出た、不安を出す場で終わらないように留意し、井戸端会議を行った。ここでの話により、買い物ツアーを行いたい等のまとめをした。まだ事業に行っていくには難しいまとめではあったが、第3回までの意見を元に、地域づくり協議会で買い物バスを行う計画が立てるようになった。

図2

### 描いてみよう10年後のふるさと ながわ 地域づくり協議会設立総会 井戸端会議

～住んでよかった 来てみてよかった 奈川に～

昨年から「奈川の暮らしを語る会」を開催し、悩みや困っていること等、地区の課題の拾い出し等を行い、その解決策について皆さんと話し合ってきました。

今までの話し合いを元に、今の奈川に何が必要なのか一緒に考えてみませんか？

<日 時> 2月28日(火)  
15:00～17:00

<場 所> 文化センター夢の森 会議室

<内 容> 井戸端会議  
気軽に地域の事、自分の生活の事を気軽に話しましょう。



参加申し込み、参加費は不要です。  
お気軽にご参加ください。

主催：奈川地区地域づくりセンター  
電話：79-2121

写真2

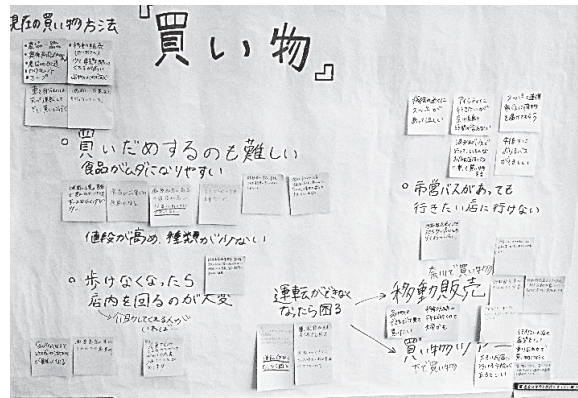




写真3

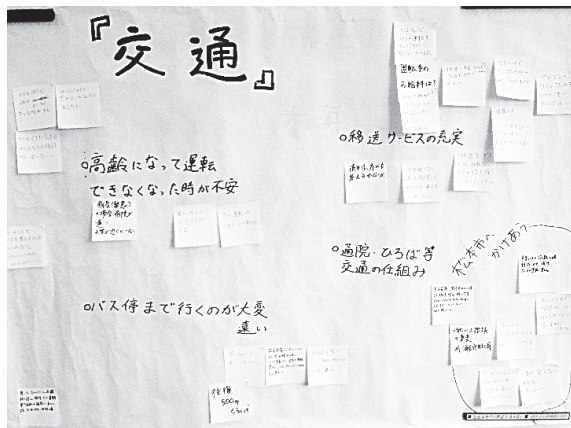
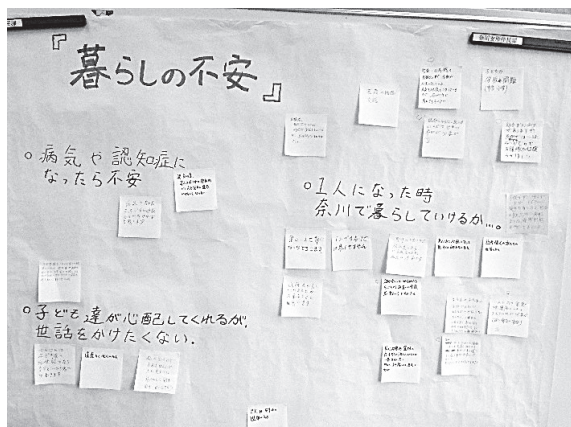


写真4

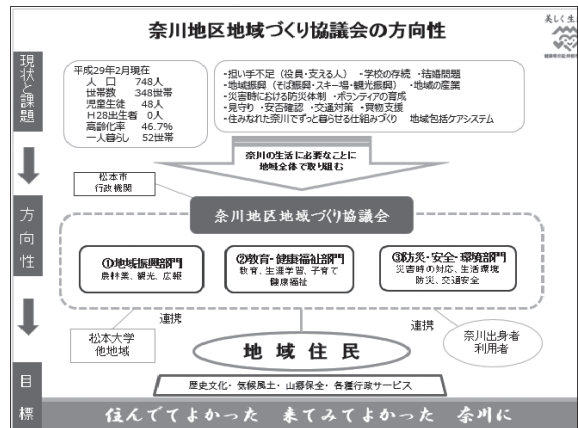


## (2) 地域づくりの組織化

昨年度から地域づくり協議会立ち上げに向けた動きを進めてきた。規約作成や住民・各協力団体への説明を行ってきた。この組織化に向けて、地域づくりセンター長と議論を繰り返しながら地域づくり協議会の方向性、また地域振興・教育・健康福祉・防災・安全・環境の各3部会の役割、位置付けのまとめを作成した(図3)。

松本市35地区において、緩やかな協議会の組織化が進められおり、その中において、奈川地区の組織化の特徴は、「地域振興」を部会の一つに置いているところである。やはり、「地域振興」には、地域住民の健康づくりに密接に繋がっていることと、小規模ではあるが、地域経済の基盤づくりに取り組むことによって生活の安定を目指す意図がある。

図3



地域づくり協議会は、松本市35地区において半数近くの地区において立ち上がっている。松本大学がある新村地区にも緩やかな協議会である「あたらしの郷協議会」がある。地域の進展に関わる大きな課題から身近な課題の解決のため町会連合会を核とする自治組織や松本大学が連携し地域づくりを行っている。「あたらしの郷協議会」は、地域振興部会・安全安心部会・いきいき部会・学びの友部会4つの部会に分かれている(「松本市新村地区あたらしの郷協議会だより 創刊号」より)。新村地区の「あたらしの郷協議会」と奈川地区地域づくり協議会で大きく違うところは、学びの友部会を設置されているところである。学びの友部会では、生涯学習を支援している。地域の文化財マップを作成して探訪の企画や、スポーツ大会、文化祭等の活動を大勢の人に気軽に参加できる世代間交流の場となるように活動を行っている。

また、「あたらしの郷協議会」の各部会には松本大学の教職員が入り、協議会と大学の連携を密にしている。奈川地区の協議会イメージ図でも、松本大学が入っているが「あたらしの郷協議会」のように各部会に教職員が入る構成は行われていない。各部会にて、専門的な技術や相談が必要な場合に協力や依頼を行っているのが現状である。今後の、部会活動においてどのような大学との関わり方が必要なのか改めて検討したいと感じる。

## (3) 奈川産食材のブランド化

平成27年度から松本市地方創生事業の取り組みとして、奈川地区の高冷地で育った農産物(奈川そば、花豆、エゴマ)等に付加価値を付けマーケティングを強化することや、奈川地区で進める都市交流事業と連携し、地域振興を図る目的で事業が動

いている。

平成28年度は主に、松本大学の健康栄養学部矢内先生との連絡・相談を行った。えごま油等の商品化が進められてきたが、新たな商品や、奈川地区は温泉地であるから温泉水の活用商品の検討を進めた。検討する中で、商品としての魅力が引き出せない結果や、製造の資金面等で難航するものも多くあった。

また、他に(一財)奈川振興公社の直売所である、ながわ山彩館で地域の住民や地区外の人が訪れて奈川の魅力を感じられるイベントを行った。

#### (4) 長期休み期間の子どもの居場所づくり

平成28年度から、新規事業として長期休み期間の子どもの居場所づくりを行った。奈川地区には児童館がないため、小学校・中学校が終わった後の子どもの居場所として、松本市子供育成課が「放課後子ども教室」というものが行われている。学校がある日のみ開催され、前々から長期休暇中も行って欲しいと保護者からの要望があった。平成27年度の夏休みから7日間だけ午後に「夏休み子ども教室」が開催されるようになった。松本市子供育成課で出している資金や保険の関係で、長期休みにも行うのは最長で7日という縛りがある。核家族で両親共働きの家庭では、夏休みと春休みに子どもを預かる場所が必要であるため、「放課後子ども教室」とは別で公民館事業として「春休みながわこどもひろば」を開催することとなった。

奈川小学校は、全校児童が24名である。この中でどれくらい春休み期間中の14日間に利用があるか等課題が多くあった。募集を取ると、1～3年生の低学年を持つ家庭から利用が毎日あり、1日平均5人程度となり14日間行った。事業内容としては、工作やスポーツ、カレー作りなど様々な内容を企画し、少しでも飽きないように工夫をした(写真5・6)。

保護者に利用理由を聞くと、「核家族で両親共働きの家庭のため低学年の子どもを一人で家に置けない」、「祖父母が家にいて面倒をみてもらえるが、子どもを毎日ずっと家にいさせたくない」、「友達と遊んでほしい」等の話を聞いた。子どもたちが春休み期間中、有意義な時間を過ごす居場所づくりとして機能できたと感じる事ができた。

写真5



写真6



スタッフを雇う形をとったため、人件費が発生するため利用料を取った。夏休みもやってほしいと要望を受けたが、利用料が高いため利用しなかったが止めたという声も聞いたため、金額が家計の負担にならないようやり方を工夫しなければならない反省点があった。

私は今まで、子どもやその保護者と関わることは少なかったが、奈川のくらしを語る会で地域住民の意見を聞いて課題を解決する動きをしていたため、相談を持ちかけられた。今までも、保護者の課題に挙がっていてもそれを解決する場が奈川地区にはなかったのではないかと感じた。

## 2. 次年度に向けて

### (1) 地域づくり協議会での取り組み

奈川のくらしを語る会でも出されていた買い物への不安を解決するために、買い物バスを運行する計画である。松本市社会福祉協議会奈川事業所が主催になるが、私も事務となり、社会福祉協議



会や福祉ひろばと中心になりながら計画を進めていく。細部は未定だが、買い物に不便を感じている高齢者に買い物サービスを提供し、奈川地区にはない品数が多い店舗へ自分で行き、自分の目で選び見て回ることで買い物を楽しみ、心と体の健康増進を図りいつまでも奈川で生活ができるようにすることが本事業の目的となるように考えている。

## (2) 大学の活用

現在、専門的な技術や相談が必要な場合に松本大学や他大学へ協力や依頼を行っているのが現状である。今後の、部会活動やその他の活動においてどのような大学との関わり方が必要なのか、大学や学生にメリットがある目的や方法を改めて検討したいと考えている。

また、特別調査研究員の研修で公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会が実施した、「CBID研修プログラム開発事業【できることもちよりワークショップ】」に参加をし、説明会、プレ研修を経て、参加した3つの地域で各実施主体による本番のワークショップを行い、一連の活動の総括として振り返りの会を行ってきた。地域での課題が複合化し、既存の福祉制度では対応が難しくなってきたと言われている。ひとりだったら諦めてしまい「しかたないよね」という生きづらい地域課題を、ふたり一緒だったら、3人集まれば、「なんとかなるかも!」という気付きにつなげたいワークショップである。

そのワークショップを、新村地区で行った知識や経験を元に、ニーズ調査や支援方法の検討のために奈川地区でも行いたいと考えている。そこで、松本大学や他の特別調査研究員の協力を得ながら奈川地区版の【できることもちよりワークショップ】の開催を考えている。

## (3) 長期休み期間の子どもの居場所

「春休みながわこどもひろば」が保護者にも好評であったため、夏休みの長期休みでも開催する考えている。そこで、今回の利用料の金額について検討することや、福祉ひろばや社会福祉協議会等の団体をより巻き込み、運営体制や内容を充実させる必要があるため実践していく。

## 参考文献

- ・松本市地域づくりセンター「奈川地区地域づくりセンター運営方針」
- ・「奈川地区地域づくり協議会立ち上げに向けて“住んでよかった 来てみてよかった 奈川に”」
- ・あたらしの郷協議会広報委員会「松本市新村地区あたらしの郷 協議会だより 創刊号」平成28年2月1日
- ・「奈川産食材ブランド化事業概要」
- ・「CBID研修プログラム開発事業2016年報告書 地域に根ざした共生社会づくり」公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会